



お店の広告「いらっしやいませ」展 において下さい!

12月に始まった企画展は3月10日(日)まで開いています。ご来館いただいた方々の感想からふたつのことに気づきます。それは、「懐かしい」と「新しい発見」という感覚です。よく知っている街角の古い写真を見て、「懐かしいなあ」と当時を振り返る人、「ひとつふたつ前の時代はこんな様子だったのか・・・(驚き)」などと知らない頃の町の姿を今と比べることで町の歴史を感じて新しい気づきに出会う人。あるいは、大正時代の「引札(ひきふだ):お店がお客に配ったチラシ」の背景に描かれた「二人のお相撲さんが草履(ぞうり)の鼻緒(はなお)を引っ張りっこしている」など、とても漫画チックでユーモラスな図柄の面白さ。こんな手の込んだチラシや団扇(うちわ)がお客さんに配られていたこと、そして、いただいたお家では大切に使いながらも今に残っていること。「これもひとつの文化だなあ」って感じながら今日も大量に出回るチラシや情報を手にするところです。



阿下喜は美濃と伊勢をつなぐ「濃州街道」の中間地点にあたることから昔から交通の要衝として人馬の往来のみならず、物産の集積地、物流交流の舞台として発展してきました。駅から北へ坂を上ったところにある銀行の角を左に曲がると西町通りへ通じ、このあたりが「濃州街道」の繁華街でした。二つの写真は銀行ができる以前の大正6年、銀行ができた後の昭和6年ごろです。いずれも絵葉書として出回った写真です。

またまた地域の方々にお世話になり、

パンジーの花を定植することができました

昨年の夏から秋にかけて場内を真っ黄色に輝かせていたマリーゴールドも地域の有志の方々のお助けがあって出来たことでした。春に向けて花壇に植え替えようと思いながら、寒い日が続いたり雪が降ったり、タイミングを逃していたところに、力強い助っ人が来てくれました。久しぶりのポカポカ天気で気持ちのいい作業となりました。

今年は、藍の栽培を中心に綿など資料になるような作物を植える計画なのですが、資料館の職員だけでは無理な事です。いろいろな皆様にお助けいただきながら成長していく郷土資料館でありたいと思います。

